



No.60

長野県看護大学学報



令和7年3月7日(金)

創立30周年記念植樹及び卒業記念植樹の様子



同窓生の絆で未来への挑戦をー創立30周年を節目にー

本学は1995年に誕生し、30年が経過した伝統ある看護系大学です。大学教育で看護職の養成を行い、県民に質の高い看護を提供したいという県内看護職の悲願のもと、全国で3番目の公立看護系大学として開学しました。

「一人ひとりの可能性が最大限に開花するよう、自立性・主体性を育み、多様な人間理解と豊かな人間性や幅広い視野を養い、看護実践に関する総合的な能力を養成する」という教育理念のもと、人々の健康と福祉の増進に寄与する看護人材を育成してきました。すでに卒業生は2,000人を超えました。なかには病棟師長や副看護部長、診療所の看護師長、行政の係長、認定看護師や専門看護師、教育研究者になっている人、起業した人もおり、県内外で活躍しています。

近年、保健医療福祉を取り巻く状況は、医療の高度化・複雑化、ICTの進展、地域包括ケアの推進など大きく変化しています。同じ教育理念のもと、根っこを共有する同窓生が縦・横のネットワークを強め、それぞれの自己実現を果たしながら社会貢献できるよう未来に挑戦していきましょう。

学 長 大塚真理子

創立30周年を記念して



この度は、長野県看護大学創立30周年誠におめでとうございます。後援会を代表いたしまして心よりお祝い申し上げます。雄大な駒ヶ岳を背に二つのアルプスが見えるこの大地に、1995年に開学して以来、多くの学生たちが学び、卒業して看護師、保健師、助産師として医療の最前線で広く活躍、貢献していることは後援会としてもこの上ない誇りです。

今後も本学の発展と学生のために後援会一同力を合わせて精一杯の支援を行いたいと思います。この30周年という記念すべき節目に際し、本学が未来に向け更に飛躍そして卒業生の方々の益々のご活躍を祈念いたしましてお祝いの言葉に代えさせていただきます。

後援会長 加藤 広司様

長野県看護大学様「創立30周年」おめでとうございます。

私は、今年「看住協」の会長に就任しました渡辺です。仕事の関係で長い間駒ヶ根を離れていましたが、何年か前に看護大学が駒ヶ根に新設されていることは知っていました。以前、私が長野市に勤務しているとき、ある病院に行ったら、「私、駒ヶ根の看護大学出身です。」という看護師さんがいましたし、また私の知人の友達が、「駒ヶ根の看護大学で教えていたことがある。」と聞きました。30周年を迎え看護大学関係者も全国各地で沢山の人が活躍していると思います。これからも優秀な人材をどんどん送り出し、40周年、50周年と続いていけば素晴らしいと思います。



令和7年度 看護大学周辺地域景観形成住民協定協議会 会長 渡辺 洋司様



創立30周年を迎えるにあたり、同窓会を代表して一言お祝いの言葉を申し上げます。母校がこの節目の年を迎えることができたのは、ひとえに多くの教職員のご尽力、そして卒業生一人一人の支えがあったからこそだと深く感じています。私たち同窓生は、ここで学び、成長したことを誇りに思い、社会のさまざまな分野で活躍しています。母校の礎が築かれた場所で得た知識や経験は、今も私たちの力となり、日々の活動に活かされています。これからも母校が更なる飛躍を遂げることを期待し、同窓会としても力を合わせて支援していく所存です。最後に、創立30周年に祝意を表し、今後ますますのご発展をお祈りいたします。

同窓会長 小池 啓介様

創立30周年、心よりお祝い申し上げます。

数少ない県立看護大学としての扉が開かれた年に、学部一期生として入学した日から、早いもので30年が経ちます。偉大な先生方から看護を学問として学び、仲間と看護について語り合った日々は、今も大切な財産です。在学中に培った知識と姿勢は、職業人としての礎となり、大学院では看護を学術的に探究する機会にも恵まれました。これらの学びは、確かな軸として日々の実践を支えています。

30年の時を経て社会は大きく変化しましたが、看護の本質は変わることなく、息づいています。母校の更なるご発展をお祈りいたします。



菜の花みのわクリニック 看護師長 赤羽 洋子 (旧姓：丸山) 様
看護学部1期生・大学院博士前期課程8期生

令和6年度 国際看護実習報告



私たちは国際看護実習でカンボジアを訪れ、現地の病院やJICA事務所にて視察に行ってきました。日本との看護の違いを見たり、現地の看護師への卒後教育に関するお話をお聞きする中で、自分の当たり前だと感じてたことが他の国の人にとっては初めて触れるものであったり、理解しにくいものであることを学びました。また、その国の価値観や考え方などを考慮した関わり的重要性や、国や文化が違っていても看護の本質は変わらないことを実感しました。さらに、現地で目にするもの、口にするもの、日常の出来事の全てが新鮮で毎日驚きや学びの連続でした。今回の実習での学びを生かし、今後はその人の背景や価値観を尊重し、一人ひとりに合わせた寄り添いができる看護職になりたいと考えています。

看護学部4年生 荻久保 雪乃さん (写真 左から5番目)

国際看護実習では、病院やJICAの視察を通して日本の看護との共通点や異なる点を捉え、看護についての理解を深めることができました。そして、国際協力をする上で文化を超えた対象理解の重要性を実感し、対象理解のための考え方についても学ぶことができ、実りの多い実習となりました。その他にも、現地の気温や交通状況、お店の方との会話など全てが刺激的なもので、それらを仲間とともに体験し学ぶことができ、忘れられない充実した実習となりました。

私は今回の実習が初めての海外でした。不安もありましたが、先生方や仲間の助けはもちろん、現地の方の人柄に触れていくなかで不安も解消され、現地を深く知ることができました。

看護学部4年生 松原 怜奈さん (写真 左から3番目)



学生の活動紹介

学生自治会



新たに学生自治会会長に就任しました四本友里です。

学生自治会では、主に鈴風祭の運営、ステージ準備、新入生歓迎会などイベントのサポートをしています。昨年は、鈴風祭のパンフレット作成、たこ焼きの屋台運営などを行い、有難いことに多くの方にお越しいただくことができました。また、新入生歓迎会では、新入生の大学生活の不安を少しでも取り除くためにクイズや若葉ノートの作成、オリエンテーションを行いました。これからも引き続きイベント運営を行い、皆様の学生生活が楽しいものとなるようサポートしていきたいと思っています。

看護学部2年生 学生自治会長 四本 友里さん (写真左・写真右：副会長 片田しのさん)

駒ヶ根市消防団での活動

私は大学1年生の4月に駒ヶ根市の消防団に入団しました。救急看護に関心があり、病院搬送前の対応を学ぶ機会として活動しています。日々、三角巾や担架を使った救急対応を通じて実践的な技術を習得しており、今後も活動を続け、将来の糧にしたいと考えています。

看護学部2年生 藤野戸 陽菜さん



学生の駒ヶ根市消防団での訓練の様子

私は大学生になって岐阜県から長野県へ引っ越して来ました。新しい土地で何か地域との繋がりを持ちたいと考えていたところ、消防団員の募集があり、趣味で吹奏楽を続けている私はラッパ隊に入団を決めました。先日、出初式で演奏する機会をいただき、演奏の楽しさを感じるとともに、消防・防災への取り組みの大変さや大切さを感じています。これからも学業と消防団の活動を両立させ、地域貢献に励みたいと思っています。

看護学部2年生 瀧本 明璃さん

皆さんは地域を支える消防団の活動について知っていますか？火災など災害時に駆けつけて行う救助活動の他に、マラソン大会やお祭りの警備など救助活動以外でも地域を支えるために活躍しています。地域を支える組織とえば少し硬いと感じてしまうかもしれませんが、話し合いや相談がしやすい環境で、それぞれが技術を高めあえるような訓練を行っています。これからも看護大学の消防団員を暖かく見守っててください。

看護学部2年生 林 穂美さん

新入生の紹介

看護学部1年生 小林夢依さん



入学してから2ヶ月ほど経ちました。入学前は新しい環境や初めての一人暮らしが楽しみな反面、勉強についていけるか、友達ができるかなどの不安もありました。でも、少しずつ慣れてきて、今は友達と食堂でお昼を食べたり、一緒にテスト勉強したりと毎日楽しく過ごしています。講義はぎゅっと詰まっていた課題も多く大変ですが、丁寧に教えてくださる先生方や共に学ぶ仲間のおかげで、看護師になるという目標に向けて日々頑張っています。また、私の夢を応援し、支えてくれている家族の存在は大きく、とても感謝しています。これからも刺激的で楽しい大学生活を送りながら、夢に向かって頑張っていこうと思います。

左下の白い服を着ているのが私です。

大学生活が始まって、2ヶ月が経ちました。一人暮らしや今までと違う大学の講義、病院での実習など初めての出来事だらけであっという間に感じました。本当に色々なことがあった中で、私が一番驚いたことは1年生の男子が私一人しかいなかったことです。入学式でその事実を初めて知り「新生活が始まることも不安なのに、なんて心細いんだ…」と内心、震えていました。そんな不安から体調を崩してしまうことが増えていたとき、同じ1年生のみんなや教員の方々が心配してくれたり直接話してくれたりしました。そのおかげで今では調子も良くなり不安も消えました。勉強や課題は大変ですが、これからも私の目指す看護師となるため精一杯頑張っていきます。

看護学部1年生 清水悠登さん



大学院博士前期課程1年生 平井義一さん



私は、他県の手術室で働いた後、今は南信にある短期大学で成人看護学領域の教員をしています。臨床や教育を通して「経験だけではどうにもならないな」と感じることも多く、もっと体系的に看護を学びたいと思い、大学院に進学しました。

大学院では、豊富な知識と経験を持つ教授陣から講義を受けることができ、そこでの気づきや学びに加え、他の大学院生とのディスカッションを通して、自分の考えを整理する機会も得られています。また、学んだことはすぐに授業や実習で学生たちに還元できる場面も多く、とても良い環境で学んでいると実感しています。

これからも、学べることの喜びを大切にし、感謝の気持ちを忘れず、大学院生活を充実したものにしていけるよう励んでいきたいと思っています。

学生へ食品支援をいただきました ありがとうございます

伊那醤油株式会社様より お醤油セット

今年も伊那醤油様から看護学部新入生にお醤油セットをいただきました(7年目)。学生は地元の味を笑顔で楽しんでいます。社長の米山弘様は剣道サークルの指導でも学生支援をしてくださっています。ありがとうございます。

上列左側：長澤 虹花 さん
上列右側：黒柳美紀子 さん
下列右側：島田 梨央 さん

上列中央：瀬瀬 陽香 さん
下列左側：柴本 詩 さん



退任教員の挨拶



喬 炎 教授 退任記念講演
(2024年度 第2回公開講座)

ご理解を得て動物実験施設が新設されたことや、研究費不足のおり北山秋雄教授（当時）からのご支援など温かいサポートを受けた記憶が鮮明に残っております。研究が数か月もつまずいたとき、解決のアイデアがつい夢に浮かんで、まさに天啓－神様の使いが助けに来られた－ような出来事に遭遇して、今でも不思議な想いです。

また、我々の研究は光栄にも、日本褥瘡学会から優秀演題3回、米国褥瘡諮問委員会から2回も受賞しました。さらに指導した留学生が他大学の医学博士や、本学の看護学修士と博士の学位を取得したことも殊の外うれしく思います。

結びに、これからの大学のさらなる発展を祈念して退職の挨拶とさせていただきます。

前 基礎医学・疾病学分野 教授 喬 炎
(帝京平成大学 健康医療スポーツ学部 リハビリテーション学科)



望月 経子 教授 退任記念最終講義

戦争を学び、その中で看護を考えたり、他大学と交流し、世界を語りながらのキャンプファイヤーなど、思い出がたくさんです。これは大学の教職員のご理解と協力のもとJICA駒ヶ根、JOCAの方たちが一緒に作ってくれたもの感謝の気持ちでいっぱいです。そして、在職していた6年間、学生たちに支えられました。国際看護実習という寝食を共にする機会、国際への夢を語り合うなどの濃い時間が学生との距離を近くしてくれたのだと思います。退任時にはこれまで国際看護を教えてきた多くの学生が祝福してくれました。本当に感謝の思いでいっぱいです。自分が思い描いていたような最後ではありませんでしたが、これまで育ててきた学生の笑顔や成長した姿に囲まれながら、幸せな最後の年になりました。これまで、本当にいろいろありがとうございました。そして、これからの長野県看護大学の益々の発展をご祈念いたします。

前 基礎看護学分野 教授 望月 経子 (桐生大学 医療保健学部 看護学科)

2025年3月31日付で長野県看護大学を定年退職しました。いよいよ駒ヶ根を離れる時に2006年赴任時からの幾多の記憶が想起され、目頭が熱くなるほど感慨無量でした。

振り返ってみると、仕事一筋に疾走した19年間でもう悔いがないと思えるほど自己満足しております。最も達成感を感じる仕事は、長年の早期褥瘡の定説を覆し独自の「多循環障害説」を創出した研究で、これからの臨床診断と治療に対する意義が極めて大きいと自負しております。この研究が成就したのは学内外の共同研究者をはじめ、多くの方々の御蔭様であると心から感謝しております。特に深山智代学長（当時）の

看護職として働き出して33年。最後の年を長野県看護大学で迎えました。これまで長年働いてきた自分へのご褒美、最後の年は好きな事をして、ゆっくり締めくくりたいと日頃から思い描いていました。しかし、現実とは大違い。これまでの人生の中で最も忙しい年となってしまいました。長野県看護大学には2019年の4月、新型コロナと一緒に赴任しました。国際看護を専門とする自分にとり、未知の感染症の流行は大打撃でしたが、幸い、学びを止めることなく、国内で、また駒ヶ根市内で実習ができました。海外へは行けない年もありましたが、沖縄で終わっていない

新任教職員紹介



後列左より

高橋 之 (認定看護師教育部門 助手)
松村 明 (事務局 教務・学生課)
春日 晃洋 (事務局 次長兼総務課長)

中列左より

戸鹿野友梨 (英語・英米文化学分野 講師)
福澤利江子 (母性・助産看護学分野 准教授)
平林 恵美 (事務局 教務・学生課 担当係長)

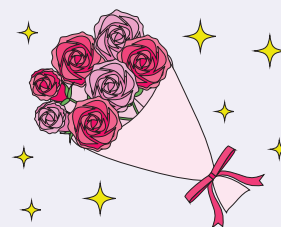
前列左より

武田亜由美 (老年看護学分野 助手)
上野 里美 (基礎看護学分野 准教授)
鈴木 容子 (母性・助産看護学分野 助教)
加藤 恭央 (事務局 教務・学生課 課長補佐)



左から

牟田理恵子 (成人看護学分野 准教授) 6月着任
嶋崎 昌子 (成人看護学分野 助手) 5月着任



4月に基礎看護学分野に着任し、国際看護学・災害看護学を担当しております上野里美です。JICA駒ヶ根で海外ボランティアの派遣前訓練に参加して以来、二度目の駒ヶ根生活となります。この地に戻り、美しく豊かな自然環境のもと看護教育に携わることができる喜びと感謝の思いで胸がいっぱいです。これからは、地域の皆さまとのつながりを深めていきたいと考えております。多様性が尊重される時代、看護の現場においても高い倫理観と柔軟な対応力が求められています。学部・大学院の学生とともに、しなやかな感性と広い視野で思考する力を磨きながら、看護の探究を目指していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

上野里美

4月より母性・助産看護学分野に着任いたしました。実は20年以上前に本学で助手として3年間勤めており、その後、海外留学や関東圏で病院や大学での勤務経験を経て、再び本学に戻って参りました。この地域と本学とのご縁に感謝し、伊那谷の水と山の美しさに改めて感動しています。日本では少子化が急速に進んでおりますが、もっと産みたいと思えるような社会をつくる看護師・助産師の育成に貢献したいと思っております。地域の皆様ともぜひご一緒できれば幸いです。ご指導の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

福澤利江子

英語・英米文化学分野に着任いたしました戸鹿野友梨です。人間言語の文法、特に英語と日本語について研究を行っています。中でも、「形態論」という語に関する分野を専門としており、語を作るメカニズムに関心があります。この度ご縁があり、駒ヶ根の地で教育と研究に携わることとなりました。自然豊かな環境での新たな生活も楽しみにしており、様々な出会いを通じて地域の魅力を少しずつ知っていけたらと思っています。教員・研究者としてはまだ駆け出しで、未熟な点も多いですが、一つ一つの経験を大切にしながら真摯に取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

戸鹿野友梨

4月からお世話になっております、春日晃洋と申します。実は3月まで、お隣の駒ヶ根工業高校の事務室に勤務しておりました。ここで皆さん、お気づきでしょうか。駒ヶ根工業高校の「ケ」は「大きな『ケ』」なんです。JR駒ヶ根駅も同様で、こちらは有名ですのでご存じの方も多いと思いますが、私が知る限り、この二つ以外は「小さな『ケ』」を使っています。市の名称(駒ヶ根市)も駒ヶ根市役所も駒ヶ根警察署も、そしてもちろん、本学の所在地(駒ヶ根市赤穂1694)も同様です。高校と駅に「大きな『ケ』」が使われている理由は分かりません。ご存じの方がいらっしゃるようでしたら、教えてください。事務局でお待ちしております。

春日晃洋

Kandaigram 2025.1 ~ 2025.6



3/5 高齢者水中運動プロジェクト
体力測定会



3/7 卒業記念植樹



3/8 大学・大学院 学位授与式



3/13 研究集会



3/14 認定看護師教育課程修了式



4/1 新入生オリエンテーション



新任教職員オリエンテーション



4/2 入学式



5/15 アカデミック・リテラシー
ポスターツアー



5/27 長野県松本蟻ヶ崎高等学校
大学見学



6/1 河川一斉清掃



6/2 認定看護師教育課程開講式



6/7 ふれあい花壇花苗植付



INFORMATION



第28回 鈴風祭

開催日 9月6日(土)・7日(日)

テーマ 「誰もがここにいていい理由」 ノーマライゼーションをコンセプトに開催します

同窓生集まれ企画 「ホームカミングディ」

日時 9月6日(土) 14:00～16:00

会場 長野県看護大学 食堂

創立30周年記念 公開講座

日時 9月13日(土) 13:00～15:30(受付 12:30～)

会場 長野県看護大学 講堂

内容 講演 「長野県健康福祉政策と今後の看護教育に期待すること」
講師 笹渕美香氏(長野県健康福祉部長)
シンポジウム 「拡大する看護職のキャリア形成 ー様々な場で活躍する卒業生たちー」
シンポジスト 清水由佳氏(特定非営利活動法人 u t a g u 理事長)
今村明文氏(飯田市立病院 認知症看護特定認定看護師)
本間永子氏(諏訪赤十字病院 看護師長)

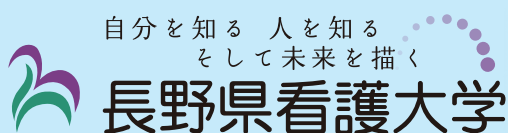
令和8年度(2026年度) 入学者選抜の募集人員・日程

学部入学者選抜試験

選抜区分	募集人員	選抜期日	出願期間
学校推薦型選抜A (地域特別枠を含む)	24人	令和7年11月29日(土)	令和7年11月10日～11月17日
学校推薦型選抜B	8人	令和8年2月3日(火)	令和8年1月19日～1月27日
一般選抜 前期日程	40人	令和8年2月25日(水)	令和8年1月26日～2月4日
一般選抜 中期日程	8人	令和8年3月10日(火)	
社会人選抜	若干名	令和7年11月29日(土)	令和7年11月10日～11月17日

大学院入学者選抜試験

選抜区分	募集人員	選抜期日	出願期間
博士前期課程	16人	令和7年10月11日(土)	令和7年9月18日～9月26日
博士後期課程	4人		



〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂1694 TEL 0265-81-5100 <https://www.nagano-nurs.ac.jp/>



長野県看護大学学報
No.60 (令和7年7月)

編集・発行
長野県看護大学 広報・交流委員会